

第1回大分川・大野川学識者懇談会

〔会議資料〕

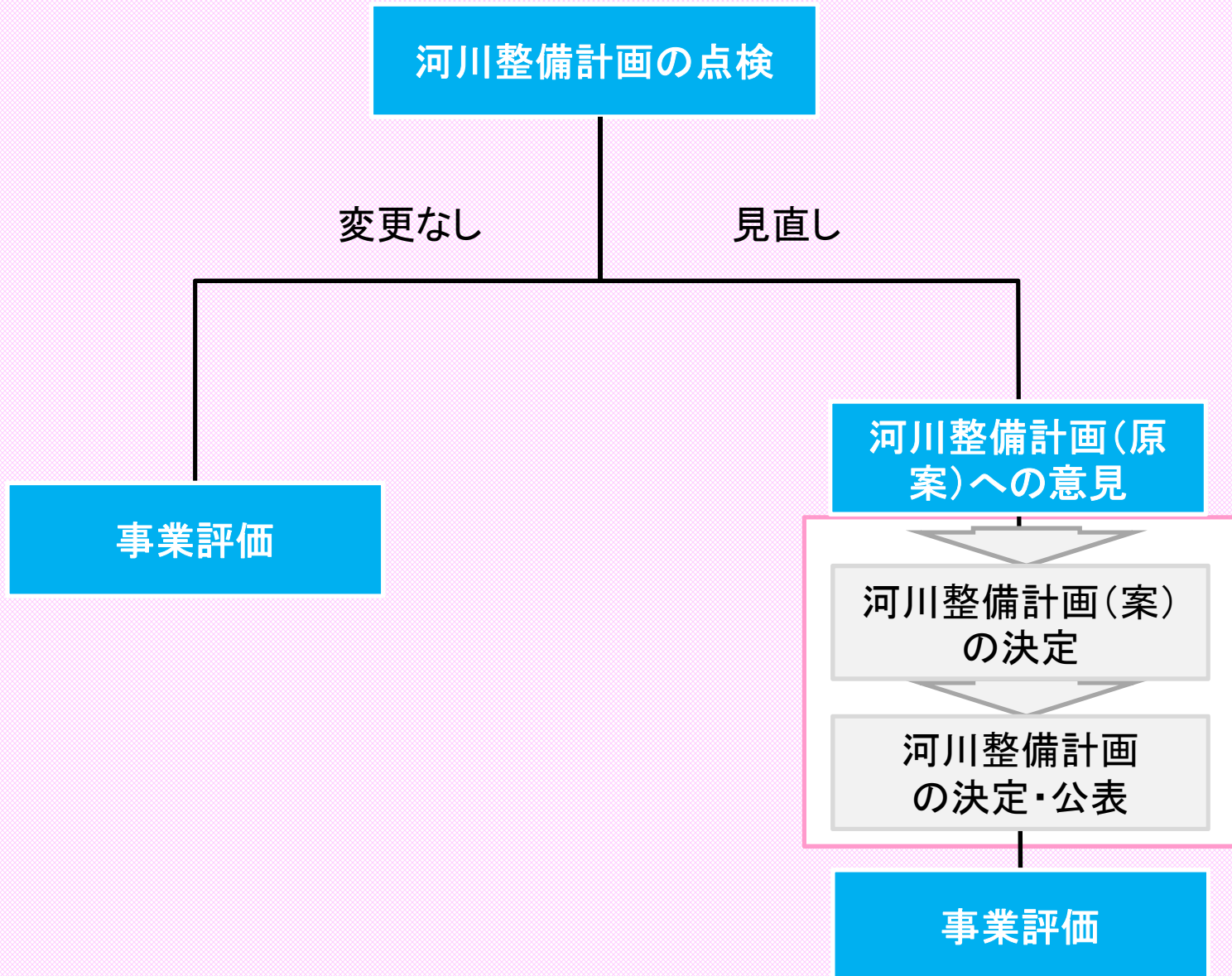
平成26年3月7日

国土交通省 九州地方整備局

1) 懇談会での審議内容等

1) 懇談会での審議内容等

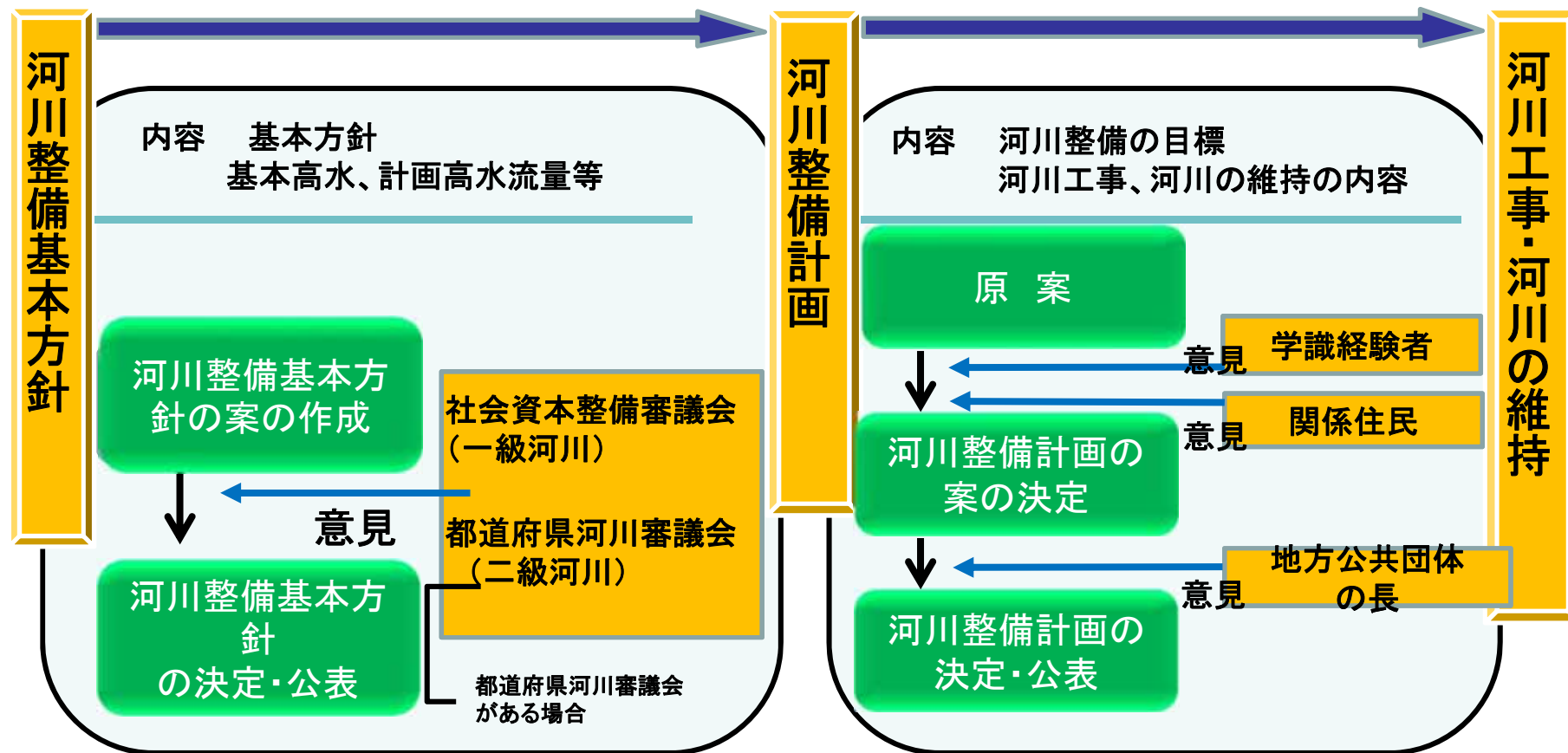
懇談会の審議範囲



2)「大野川水系河川整備計画」の概要

2) 大野川水系河川整備計画の概要

河川整備基本方針と河川整備計画について



(河川整備基本方針)

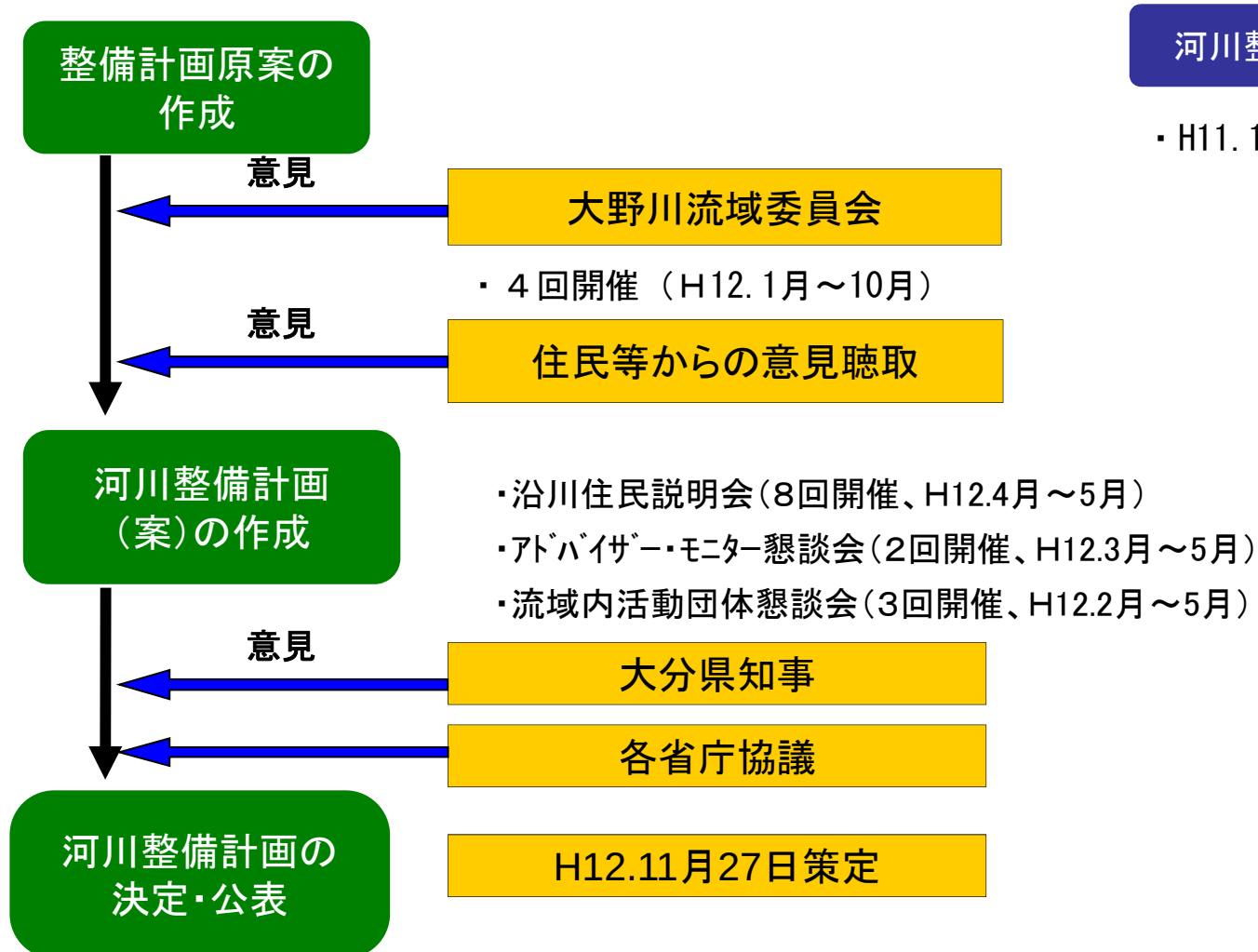
第十六条 河川管理者は、その管理する河川について、計画高水流量その他当該河川の河川工事及び河川の維持(次条において「河川の整備」という。)についての基本となるべき方針に関する事項(以下「河川整備基本方針」という。)を定めておかなければならない。

(河川整備計画)

第十六条の二 河川管理者は、河川整備基本方針に沿って計画的に河川の整備を実施すべき区間について、当該河川の整備に関する計画(以下「河川整備計画」という。)を定めておかなければならない。

2) 大野川水系河川整備計画の概要

大野川水系河川整備計画の策定経緯について



河川整備基本方針の策定

・ H11. 12. 1

2) 大野川水系河川整備計画の概要

策定の経緯

①大野川水系流域委員会について

◎平成12年1月20日設立

◎委員:計13名(委員長:中野昭 大分高専名誉教授)

◎開催回数:計5回

②住民の意見聴取

◎住民説明会 (平成12年4～5月、計8回、182名参加)

◎河川水辺の国勢調査アドバイザー・環境保全モニター懇談会
(平成12年3～5月、計2回、のべ13名参加)

◎大野川流域ネットワーキング懇談会
(平成12年2～5月、計3回、のべ42名参加)

◎河川相談窓口 (電話・Eメール等で11件の意見)

③地方公共団体の長の意見聴取

◎大分県知事、関係市町村

平成12年11月27日 策定

平成15年6月23日 大野川河川整備計画の点検及び評価

大野川流域委員名簿 (五十音順、敬称略)

氏 名	専門分野	現所属
阿部 征史	水利	大分県土地改良事業団体連合会専務理事
川野 田實夫	環境化学	大分大学教育福祉科学部教授
工藤 哲弘	経済・観光	大分商工会議所青年部会長
幸野 敏治	NPO	大野川流域ネットワーキング事務局長
佐藤 真一	生物	大分生物談話会会長
佐藤 誠治	都市計画	大分大学工学部教授
島田 晋	衛生工学	大分工業高等専門学校土木工学科教授
豊田 寛三	歴史・文化	大分大学教育福祉科学部教授
中野 昭	河川工学	大分工業高等専門学校名誉教授
狭間 久	報道関係者	大分合同新聞社論説委員長
益田 信之	漁業	元大分県林業水産部次長
吉田 寛	文化	コピーライター
吉田 正雄	生物	大分大学名誉教授

第4回委員会時点 (平成12年10月13日)

2) 大野川水系河川整備計画の概要

大野川の概要

大野川の源流 : 宮崎県西臼杵郡祖母山
幹川流路延長 : 107km
流域面積(集水面積) : 1,465km²
流域内人口 : 約21万人
想定氾濫区域面積 : 約50km²
想定氾濫区域内人口 : 約7.9万人
想定氾濫区域内資産額 : 約1兆3,784億円
主な市町村 : 大分市、竹田市 等

出典:「河川現況調査」(基準年:平成17年)



上流域 (竹田市)



中流域 (豊後大野市)



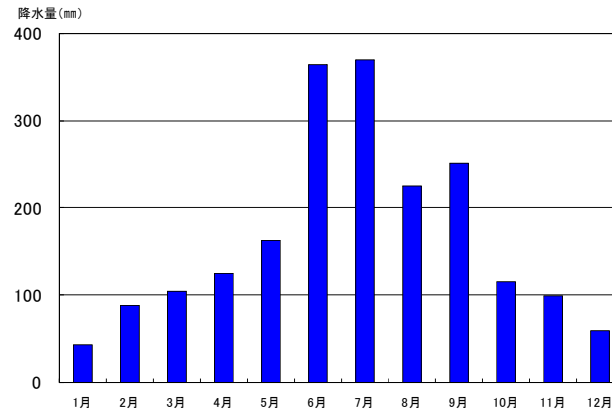
下流域 (大分市)



2) 大野川水系河川整備計画の概要

【降雨】

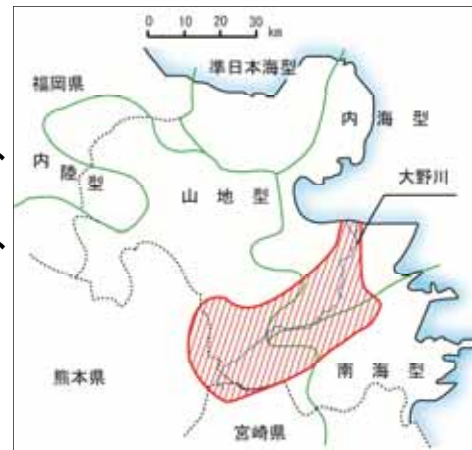
- 年間平均降水量は約 2,200mm（全国平均の約1.3倍）
- 梅雨期から台風期（6月～9月）の雨量が約63%と多い。
- 大出水は、台風による豪雨が多い。



大野川流域の月別降水量
(2003～2012年の平均)

【流域の地形】

源流に祖母山、傾山、阿蘇山、久住山を持つ上流部では、台地、丘陵、谷底平野が形成され、その中大野川が穿って流れ、滝、溪谷が多くなっている。また、下流部では、河岸段丘と沖積平野が形成されている。



気候区分



祖母・傾山系



上流域（竹田市）

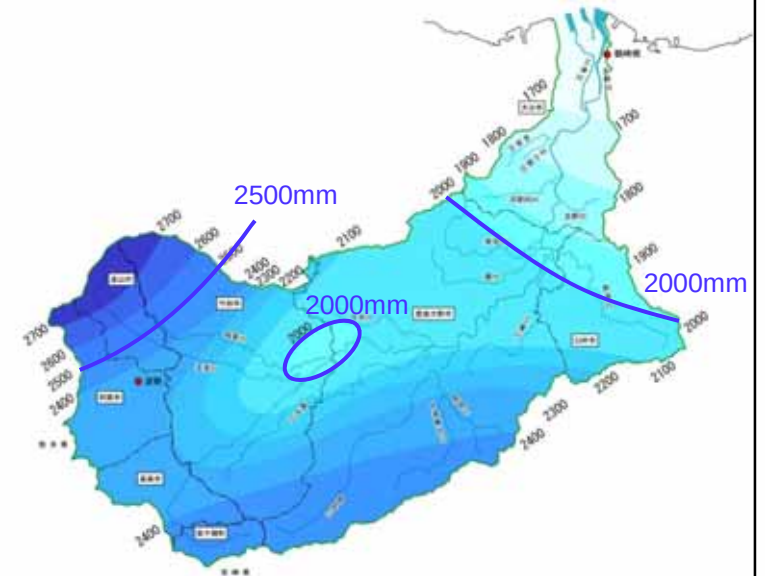


中流域（豊後大野市）

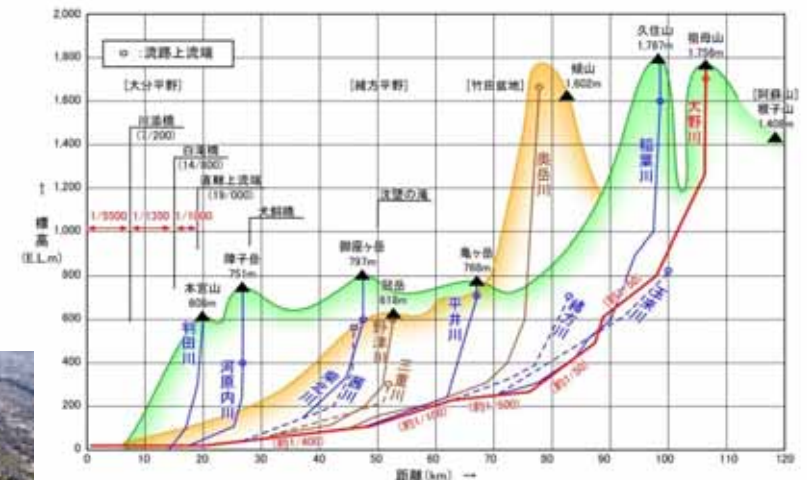


下流域（大分市）

大野川の概要



年間降水量分布図（2003～2012年の平均）



大野川の地形と勾配

2) 大野川水系河川整備計画の概要

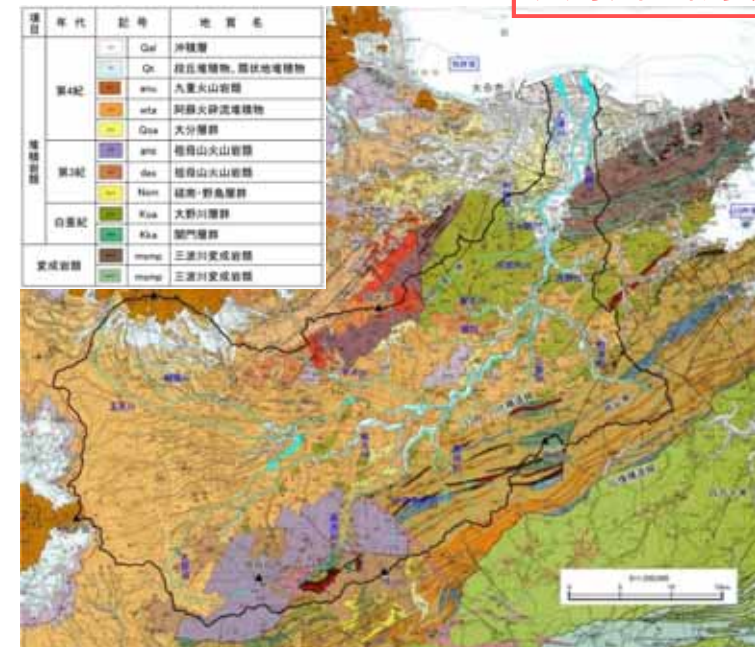
【流域の地質】

流域の地質は、上中流部に阿蘇火砕流堆積物^{あそ か さい りゅう}が広く分布し、表土は黒色の火山灰で覆われている。また、下流部では、川筋に砂礫・粘土等の沖積層が分布し、右岸山地には変成岩、左岸丘陵地には砂礫層等が分布している。

【流域の産業】

- 流域の産業活動は、第三次産業の利用が主体である。
- 上流域は広大な台地、原野、水に恵まれ農業及び林業が盛んである。
- また、水産業は、アユ、コイ、フナ、ウグイ、ウナギ等を中心とする内水面漁業が主である。
- 工業についてみると、大野川河口付近一帯に鉄鋼、石油精製、石油化学等の工業が進出している。

大野川の概要



大野川流域地質図



九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau

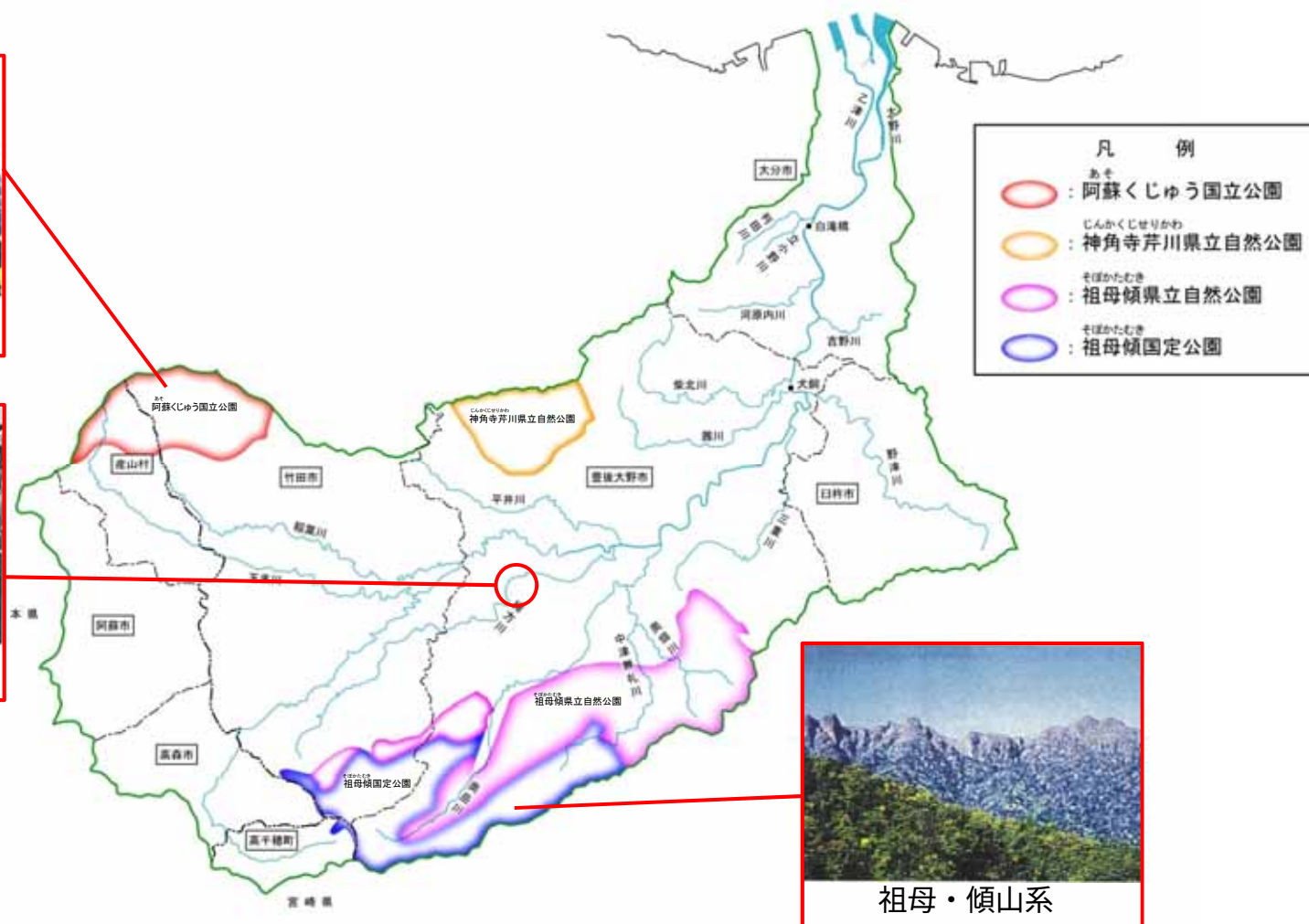
大野川の概要



くじゅうの火山群



原尻の滝



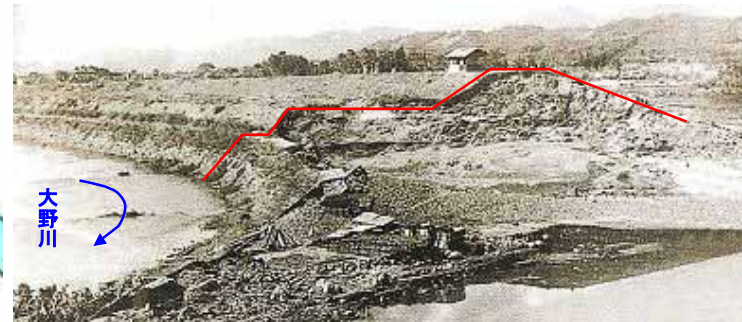
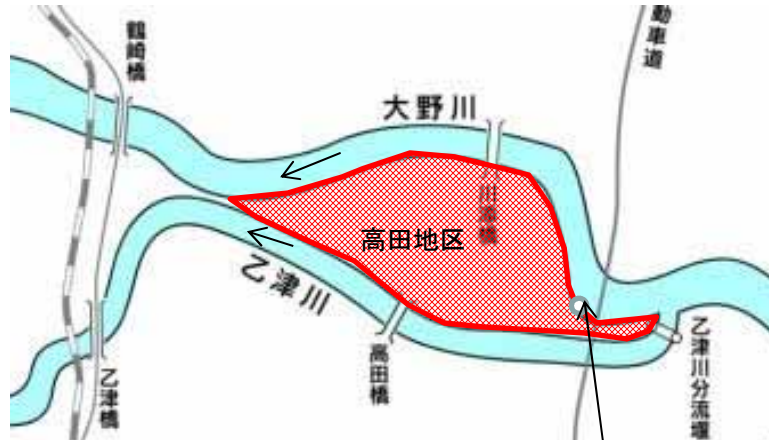
祖母・傾山系

2) 大野川水系河川整備計画の概要

【歴史（川との共存）】

大野川の概要

大野川と乙津川に囲まれた高田地区は洪水の常襲地帯であったため、屋敷の石垣を高くし、家の周囲を防水林で取り囲むことで洪水による家屋流失を防いでいた。



大野川 8k400付近 破堤箇所

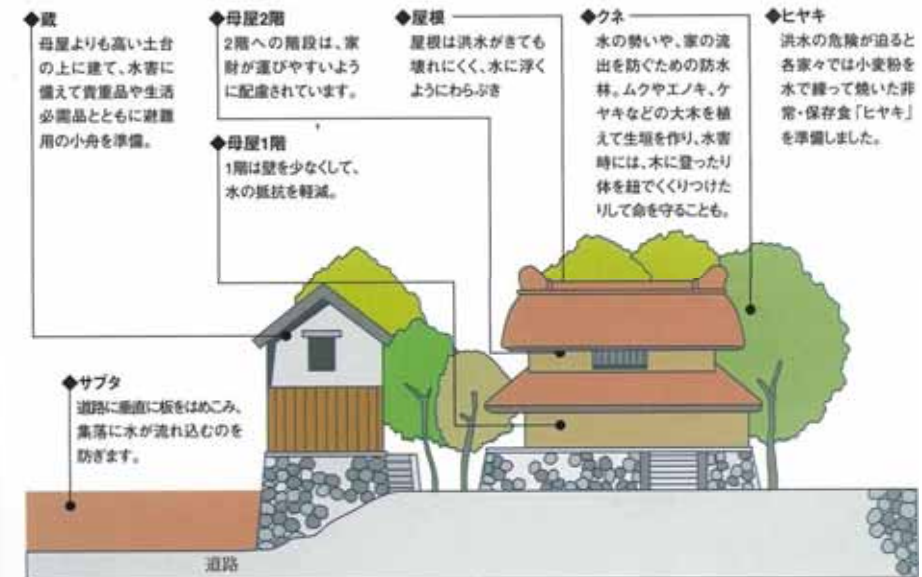


一石一字法華塔



一石一字法華塔

■輪中地帯特有の家のつくり



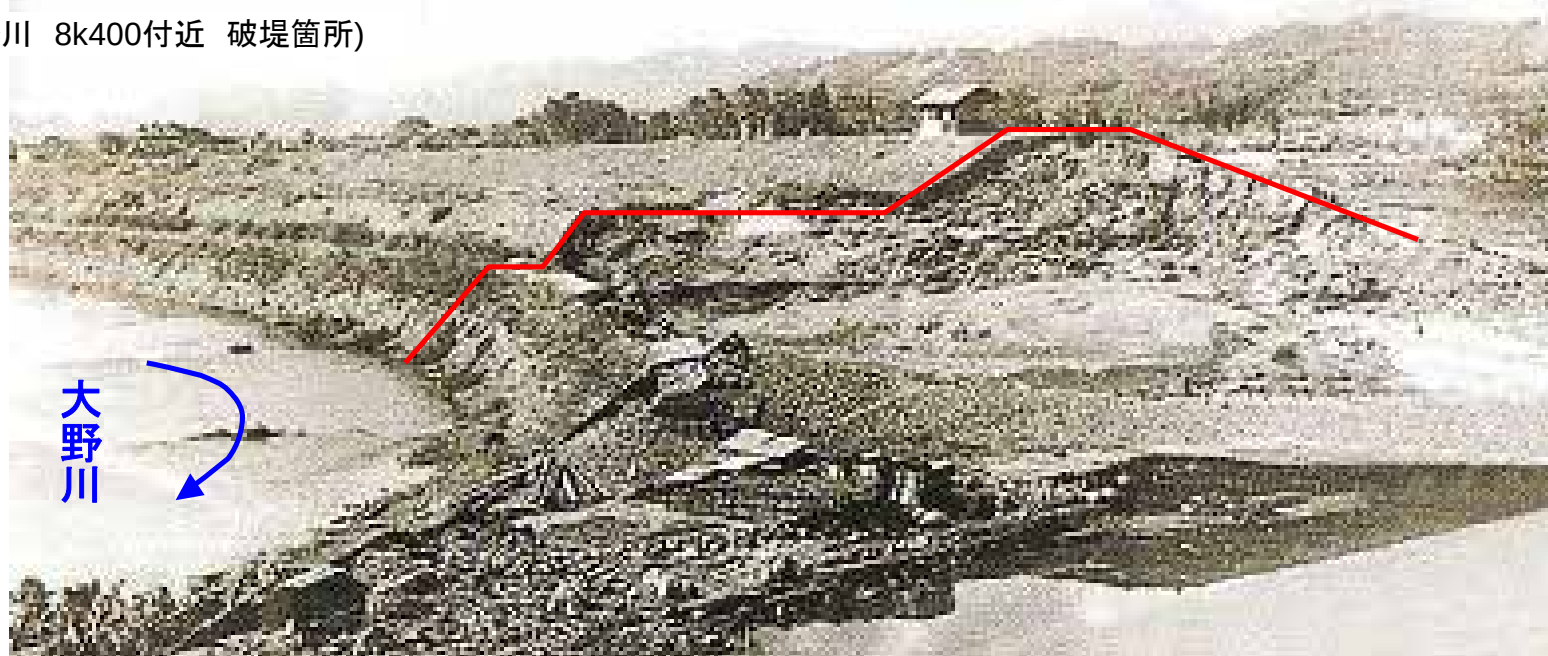
2) 大野川水系河川整備計画の概要

【主な水害】

昭和18年9月洪水

大野川の概要

大野川 8k400付近 破堤箇所)



昭和18年当時の築堤状況
大分市大津留地区
大野川左岸8km付近
(昭和18年9月洪水破堤箇所)

死者	240名
負傷者	126名
行方不明	78名
家屋流失	624戸
家屋全・半壊	2,998戸
床上浸水	14,321戸
床下浸水	15,675戸

※被害状況は大分県全域

2) 大野川水系河川整備計画の概要

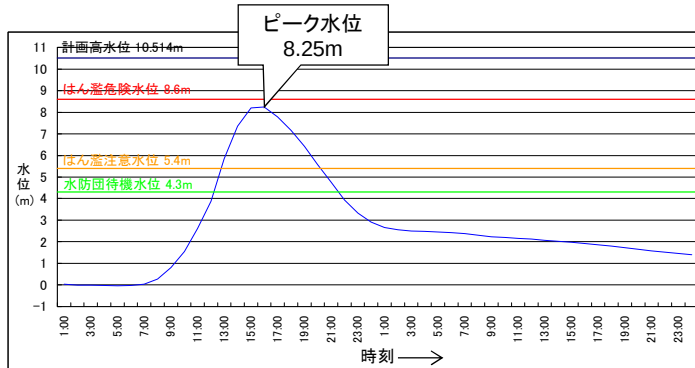
【主な水害】

平成2年7月洪水（梅雨）

被害状況

死者	5名
負傷者	40名
家屋流失・全壊	65戸
家屋半壊	180戸
床上浸水	451戸
床下浸水	484戸

※被害状況は大分県全域



内水被害状況



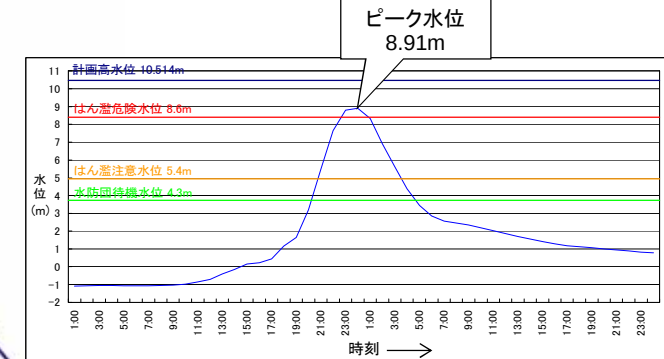
大分市毛井地区

平成5年9月洪水（既往第1位）（台風13号）

被害状況

死者	11名
負傷者	20名
行方不明	1名
家屋全・半壊	123戸
床上浸水	1,949戸
床下浸水	6,860戸

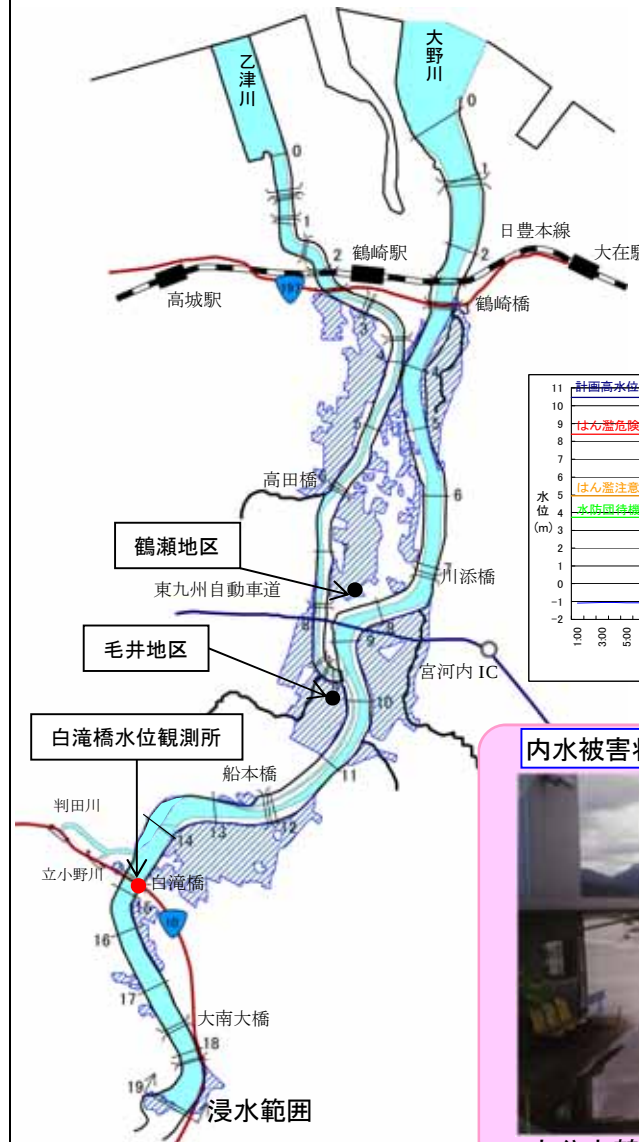
※被害状況は大分県全域



内水被害状況



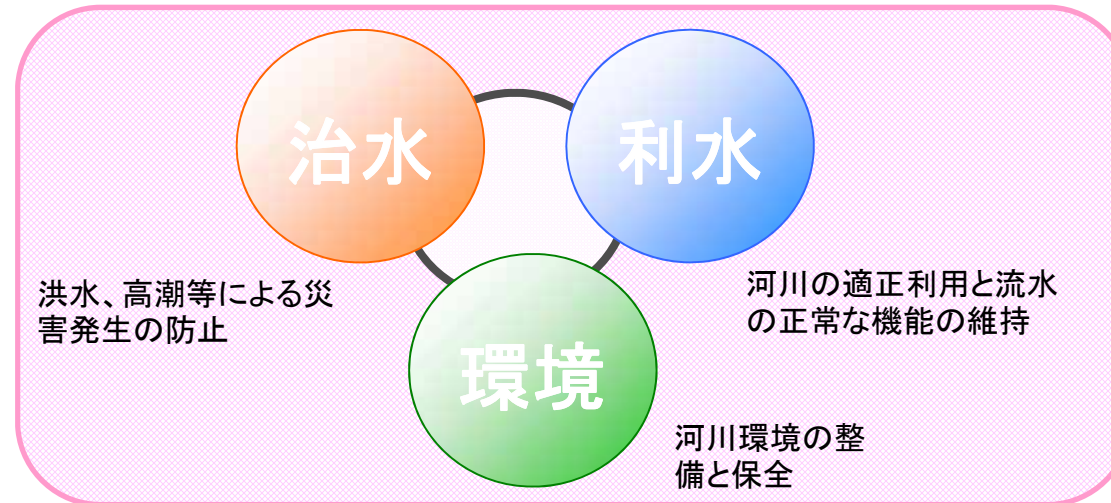
大分市鶴瀬地区



2) 大野川水系河川整備計画の概要

計画の主旨

大野川水系河川整備計画の基本的な考え方



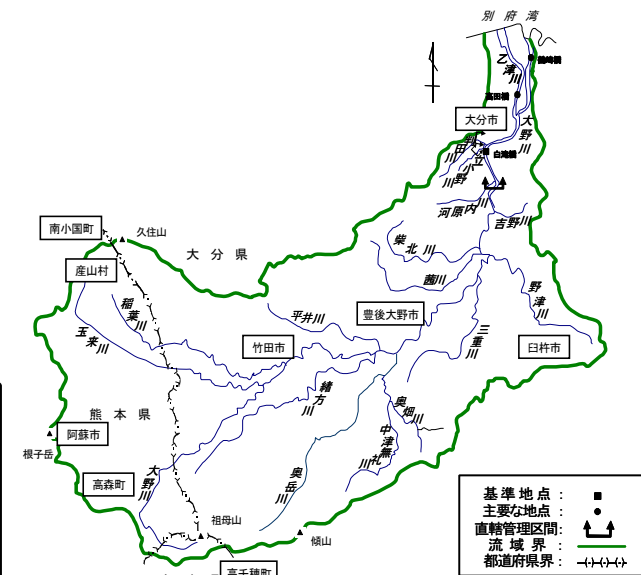
計画の対象期間

本河川整備計画の対象期間は、概ね30年としています。
※策定後のこれらの状況の変化や新たな知見・技術の進捗等の変化により、適宜見直しを行うものです。

計画の対象区間

本河川整備計画の対象区間は、国土交通省の管理区間(大臣管理区間)である32.3kmを対象としています。

- ・大野川 : 19.8km
- ・乙津川 : 10.9km
- ・判田川 : 1.3km
- ・立小野川 : 0.3km



2) 大野川水系河川整備計画の概要

大野川水系河川整備計画の構成

現河川整備計画の基本的な考え方

本計画は、治水、利水、環境それぞれにおいて現状の課題を抽出し、計画目標を設定し、目標達成に向けた取り組みをまとめています。

第1章 大野川の概要

第2章 大野川の現状と課題

治水

■平成5年9月に昭和4年の直轄河川改修着手後最大の洪水が発生したことにより、以下の対策が必要
・流下能力 ・河床の変動
・内水氾濫
・大規模な洪水の恐れ

利水

■全国的な小雨化現象による流量減や社会情勢等の変化によって水不足が懸念されます。清らかで豊富な水を永く保つために、流域全体で一体となって健全な水循環系の保全を図る必要があります。

環境

■自然環境とのふれあいや体験学習の場としての河川に親しむ施設の整備が求められています。
■良好な水質を満足していくためには、自治体をはじめ流域全体で生活雑排水対策等に取り組んでいく必要があります。
■生息環境を保全・復元していく必要があります。

第3章 目標に関する事項

洪水・高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する目標
(1)平成5年9月洪水(治水安全度:約1/40)相当の流量
(2)内水対策の軽減
(3)危機管理の強化

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持
(1)流水の正常な維持
(2)渇水被害の軽減

河川環境整備と保全
(1)良好な水辺環境の保全
(2)河川空間の利用と保全の調和
(3)自然環境との共生を前提とした整備

第4章 河川整備の実施に関する事項

(1)洪水時の水位を低下させるための対策
(2)洪水時の越水を防御するための対策
(3)内水対策
(4)河床安定化対策
(5)大規模な洪水による氾濫被害の軽減対策

(1)水量・水質の監視

(1)河川とのふれあいや体験学習の場等の整備
(2)多自然型川づくり

河川の維持管理

- ・河川管理施設の維持管理・災害復旧
- ・樹木等の管理
- ・河川空間の適切な利用調整・管理
- ・砂利採取の調整
- ・河川情報の高度化及び提供
- ・水防団との協働
- ・防災意識の向上

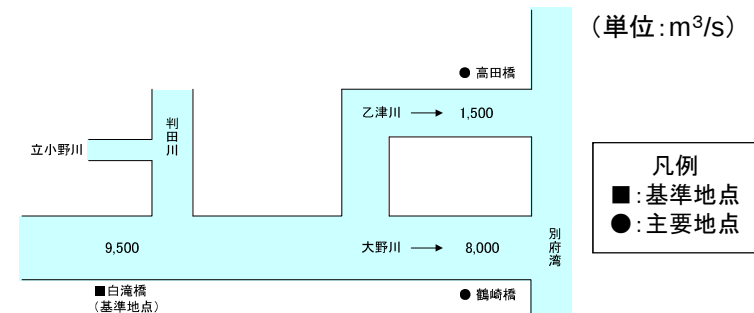
第5章 大野川の川づくりの進め方

2) 大野川水系河川整備計画の概要

整備計画の目標

治水

◆平成5年9月洪水と同規模の洪水が発生しても、全川で洪水を安全に流下させるため、目標流量を基準地点白滝橋で9,500m³/sとします。(治水安全度:約1/40相当)



- ◆内水による被害が著しい地域については、内水氾濫による床上浸水等の被害の軽減を図ります。
- ◆排水樋管等で老朽化及び背後地の状況の変化等により所定の機能に今後影響が予測されるものについて、機能の確保を行い災害の発生を防止します。河道内での局所的な深掘れの進行による護岸、堤防等の崩壊を防止します。
- ◆洪水・高潮・地震時等には、情報連絡、点検の体制を整備し、迅速な対応を図ります。

利水

- ◆適正な取水が行われているため、この状態を維持します。
- ◆河川水の利用の現況、動植物の保護、漁業等の流水の正常な機能の維持に努めます。
- ◆渇水による影響の軽減に努めます。
- ◆水質は、関係機関と連携し、その保全に努めます。

環境

- ◆良好な水辺環境の保全に努めます。
- ◆沿川住民・自治体等と連携を図りながら利用と保全の調和に努めます。
- ◆河川とのふれあいや体験学習等の場については、関係機関とも調整を図り、自然環境との共生を前提として整備に努めます。

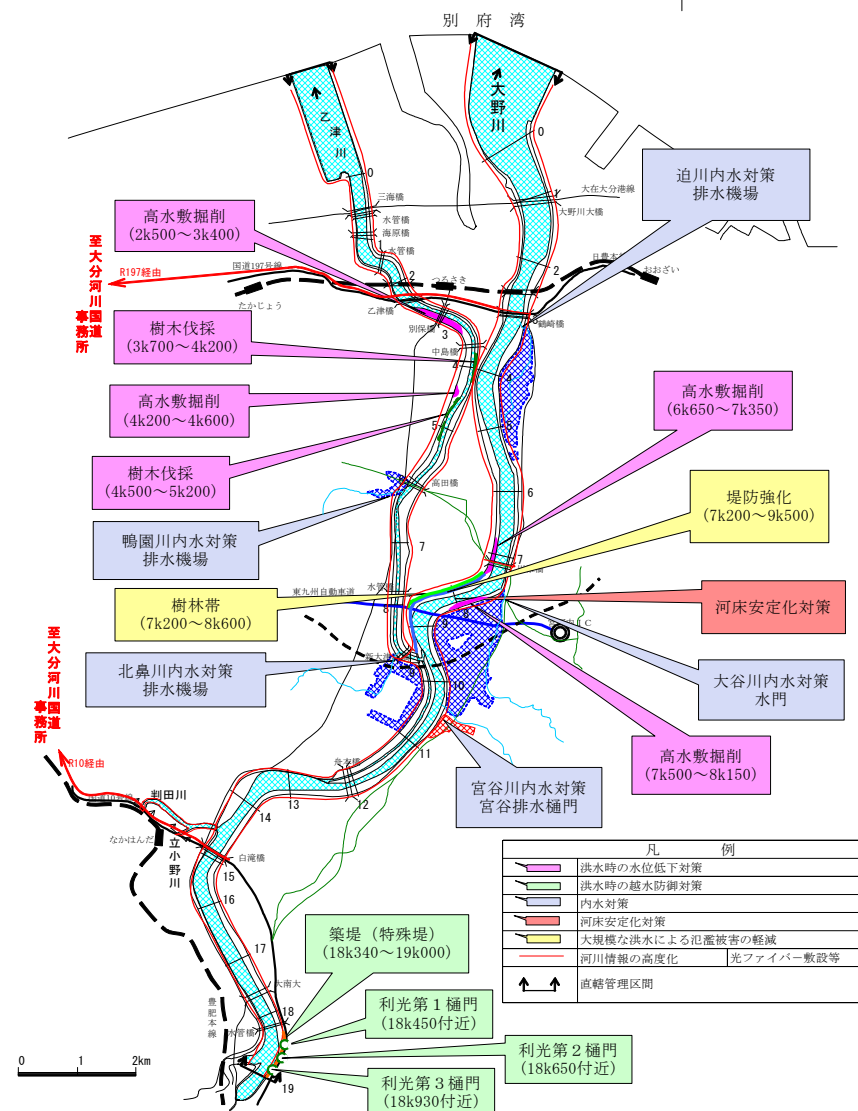
九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau

整備の内容

治水施設整備

- また河川環境整備として、以下の整備を行うこととしている。

河川名	場 所	整備内容
大野川	大分市鍛冶屋(かじや)地先 左岸	水辺の楽校(がっこう)
乙津川	大分市森町地先 左岸	
大野川	大分市地先他 右岸12/000～17/500付近	ウォーキングロード
乙津川	大分市西鶴崎地先 右岸2/200 付近	自然河岸再生



2) 大野川水系河川整備計画の概要

河川の維持の目的、種類及び施行の場所

整備の内容

治水・利水・環境の視点から調和のとれた所期の機能を維持することを目的として、環境調査、モニタリング調査、河川水辺の国勢調査結果等を踏まえ、瀬と淵をはじめとする良好な自然環境を保全すること等を考慮し、下記の事項を行います。

◆河川管理施設の維持管理・災害復旧

- ・河川管理施設の復旧・修繕、機器の更新
- ・局所的に堆積した土砂等の撤去
- ・河川巡視、点検を実施
- ・水門・樋門、排水機場等の操作環境の改善及び操作の動力化・遠隔化

◆樹木等の管理

- ・周辺環境を考慮しながら伐採、除草、保全等の維持管理

◆河川空間の適切な利用調整・管理

- ・治水・利水・環境に配慮して適切に管理
- ・不法投棄、不法占用、不法係留等に対する河川巡視強化

◆砂利採取の調整

- ・河床変動状況から判断して河床低下傾向にある区域について、原則的に砂利採取禁止区域を継続して設定します。

◆河川情報の高度化及び提供

- ・光ファイバー網の整備等
- ・流域内の雨量や河川水位等の河川情報の収集
- ・水防体制の維持・強化
- ・住民に対して洪水予報等の防災情報の提供

◆水防団との協働

- ・水防団が密接な情報交換

◆防災意識の向上

- ・ハザードマップ等の防災情報の提供
- ・防災教育や防災訓練等

◆水量・水質の監視等

- ・渇水による影響の軽減を図るため、渇水調整の体制を整備し情報収集。提供を行う
- ・「大分川・大野川水質汚濁防止連絡協議会」を活用し、生活雑排水対策等を行う
- ・水質事故等については、河川巡視や「大分川・大野川水質汚濁防止連絡協議会」との連携により早期発見と適切な対処に努める

3)「大野川水系河川整備計画」 策定時からの変化

河川を取り巻く社会状況の変化

3) 大野川水系河川整備計画策定時からの変化

河川を取り巻く社会状況の変化

年	月	事 象	治水	利水	環境
H9	6	河川法改正 (治水・利水に加え河川環境の整備と保全を追加)			●
H11	12	「大野川水系河川整備基本方針」の策定	●	●	●
H12	11	「大野川水系河川整備計画」の策定	●	●	●
H13	7	水防法改正 洪水予報河川の拡充、浸水想定区域の公表等	●		
H14		自然再生事業の創設			●
H16	6	景観法の制定			●
H17		総合水系環境整備事業、総合河川環境整備事業の創設			●
H18	5	多自然型川づくりレビュー研究会設立 多自然型から多自然へ	●		●
H19	4	「効果的・効率的な河川の維持管理の実施」について通知 河川維持管理計画、河川維持管理実施計画の作成	●		
H22	4	「総合水系環境整備事業の実施方針」について通知			●

3) 大野川水系河川整備計画策定時からの変化

河川を取り巻く社会状況の変化

年	月	事 象	治水	利水	環境
H23	3	東北太平洋沖地震	●		
	6	中央防災会議専門調査会が「今後の津波防災対策等の基本的考え方について」提言	●		
	12	「津波防災地域づくりに関する法律」施行	●		
H24	2	「河川構造物の耐震性能照査指針」が通達	●		
	7	九州北部豪雨災害発生 矢部川の堤防が浸透により50mにわたって決壊	●		
	9	九州北部豪雨災害を踏まえた堤防緊急点検結果を発表	●		
H25	2	大分県が南海トラフの巨大地震等が発生した場合の最大津波高による浸水域と浸水深を公表	●		
	3	大分県がH25年2月に公表した津波浸水時の被害想定調査結果を公表	●		
	4	社会資本整備審議会河川分科会が「安全を持続的に維持するための今後の河川管理のあり方について」答申	●		
		大分市が津波・地震ハザードマップを公表	●		
	7	水防法及び河川法改正 浸水想定区域内の事業所の避難計画など地域防災力の向上 河川管理者による水防活動への協力 事業者等による自主的な水防活動の促進 河川管理施設等の維持又は修繕 河川協力団体制度の創設 従属発電のための水利使用に関する登録制度の創設	●	●	

3) 大野川水系河川整備計画策定時からの変化

東北地方太平洋沖地震

河川を取り巻く社会状況の変化

- 近年、これまでの想定をはるかに超える大規模な災害が全国各地で発生しています。
- 平成23年3月の東北地方太平洋沖地震の発生を受け、津波・地震に関する法整備や基準づくり等が進められています。

H23 東北地方太平洋沖地震

阿武隈川上流部



地震による堤防の被災状況



津波・地震ハザードマップ(大分市)

H23. 6 今後の津波防災対策の考え方を提言

中央防災会議専門調査会が、「今後の津波防災等の基本的な考え方について」提言

H23. 12 津波防災地域づくりに関する法律

将来起りうる津波災害の防止・軽減のため、全国で活用可能な一般的な制度を創設し、ハード・ソフトの施策を組み合わせた「多重防御」による津波防災地域づくりを推進

H25. 2 大分県が津波浸水区域を公表

大分県において被害が想定される以下の3つの震源・波源域に関する津波浸水予測を実施

- ①南海トラフの巨大地震、②別府湾の地震、③周防灘断層群主部

H25. 4 大分市が津波・地震ハザードマップを公表

大分市が、南海トラフにおける巨大地震が発生した場合に予想される津波の浸水想定区域や想定浸水深などを示したハザードマップを公表

3) 大野川水系河川整備計画策定時からの変化

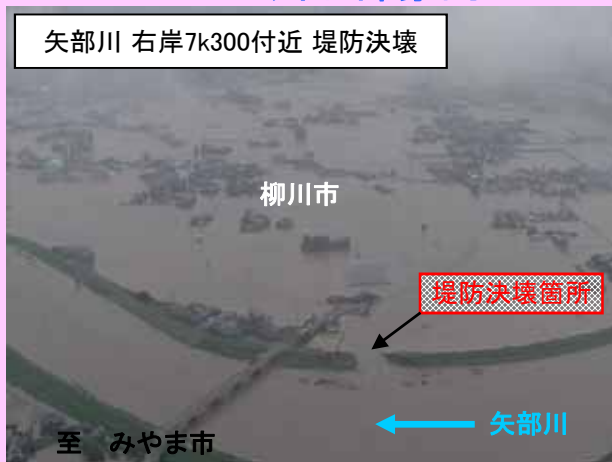
九州北部豪雨

河川を取り巻く社会状況の変化

- 平成24年7月の九州北部豪雨では、矢部川の堤防が浸透により50mにわたって決壊しました。
- この災害を受け、法整備や基準づくり等が進められ、これを踏まえて緊急点検や詳細検討を行い対策を推進します。

H24 九州北部豪雨

矢部川 右岸7k300付近 堤防決壊



パイピングによる堤防の決壊状況



矢部川の噴砂の状況

H24. 7 九州北部豪雨の発生

九州北部豪雨災害により、矢部川の堤防が浸透により50mにわたって決壊

H24. 9 堤防の緊急点検結果の公表

九州北部豪雨での河川の氾濫、堤防決壊を受け、増水時に強度や高さが不足し、対策を必要とする点検結果を公表



大野川の緊急点検結果

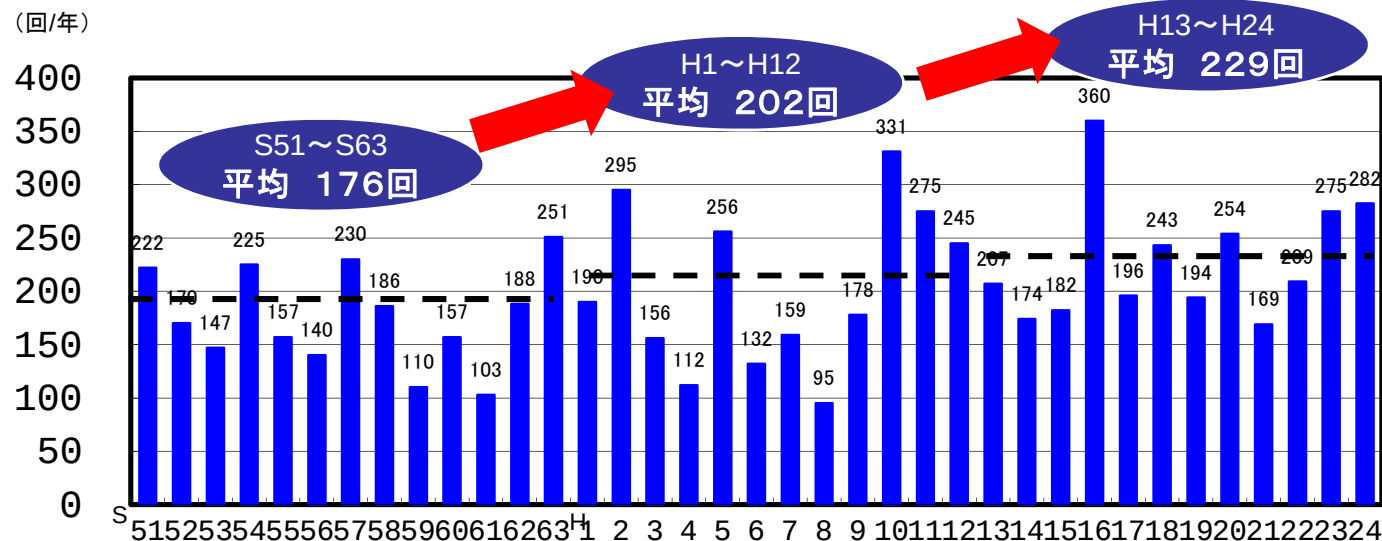
3) 大野川水系河川整備計画策定時からの変化

降雨量の増加

河川を取り巻く社会状況の変化

1. 1時間降水量50mm以上の年間発生回数(1000地点あたり)

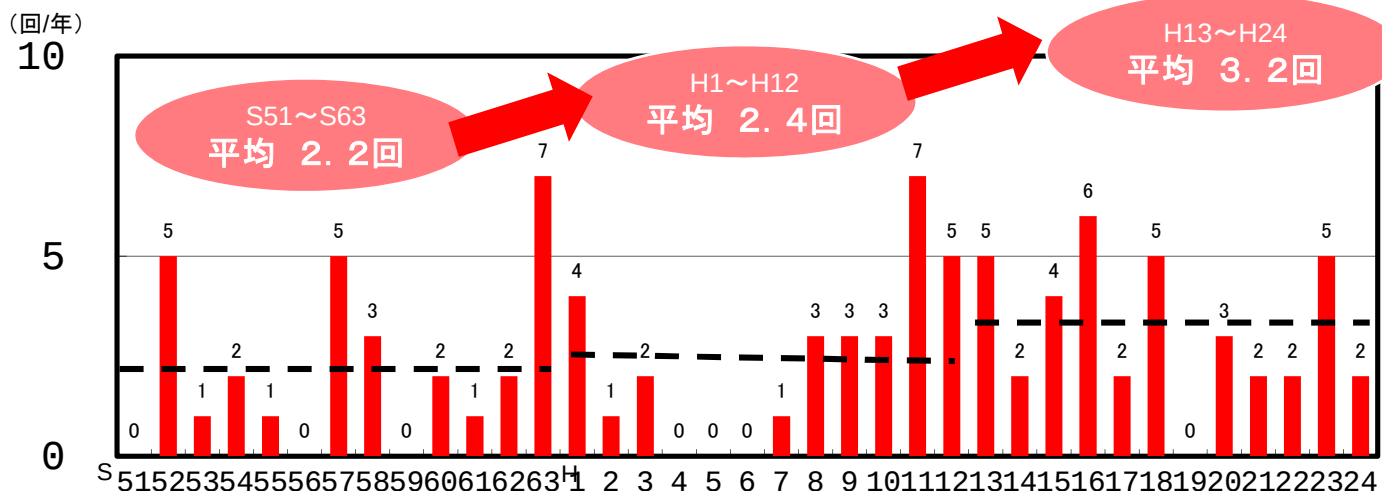
(回/年)



- ・1時間降水量の年間発生回数
- ・全国約1300地点のアメダスより集計

2. 1時間降水量100mm以上の年間発生回数(1000地点あたり)

(回/年)



資料) 気象庁資料より作成

凡 例

--- 各期間の平均値

3) 大野川水系河川整備計画策定時からの変化

災害の発生

近年、豪雨や台風等により、各地で甚大な被害が発生しています。

河川を取り巻く社会状況の変化

近年の主な河川被害



福岡県大野城市乙金（九州縦貫自動車道 福岡IC～太宰府IC 上り・下り）のり面の崩落。

矢部川（福岡県柳川市）



H25 島根・山口豪雨（7月）



H25 台風18号（9月）

直轄河川



東京都北区、板橋区



和歌山県田辺市熊野

河道閉塞



和歌山県東牟婁郡那智勝浦町那智川支川

土石流発生



白川（熊本市）



大野川（大分県竹田市）



3) 大野川水系河川整備計画策定時からの変化

災害の発生

近年の水害・土砂災害(総雨量1,000mmを超える大雨)

河川を取り巻く社会状況の変化

全国各地で総雨量1,000mmを超える大雨が毎年のように発生し、大規模な水害・土砂災害が発生しています。

平成18年

・7月豪雨で総雨量1,200mm以上
・川内川や米ノ津川において氾濫が発生

	7月豪雨
死者	5名
床上浸水	899棟
床下浸水	2,674棟



下手仲間地区の土石流
(鹿児島県菱刈町)



川内川の氾濫による家屋損壊(鹿児島県さつま町)

平成19年

・台風4号により総雨量が1,000mm以上
・緑川等では浸水被害が発生

	台風4号
死者	3名
床上浸水	169棟
床下浸水	1,152棟



緑川の氾濫(熊本県甲佐町)



緑川支川の氾濫(熊本県甲佐町)

平成22年

7月梅雨前線豪雨で総雨量1,200mm以上
・鹿児島県等においてがけ崩れ等が発生

	梅雨前線等
死者数	15名
床上浸水	1,806棟
床下浸水	5,813棟



県道74号の被災状況
(鹿児島県南大隅町)



がけ崩れによる家屋損壊(鹿児島県さつま町)

平成23年

・台風12号により総雨量が2,400mm以上
・紀伊半島南部を中心に河道閉塞や甚大な浸水被害が発生

	台風12号
死者	73名
床上浸水	7,836棟
床下浸水	19,167棟



河道閉塞(奈良県赤谷)



熊野川の氾濫(和歌山県本宮町)

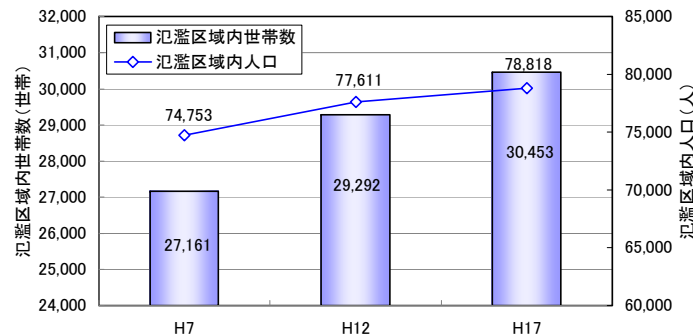
流域内の状況の変化

3) 大野川水系河川整備計画策定時からの変化

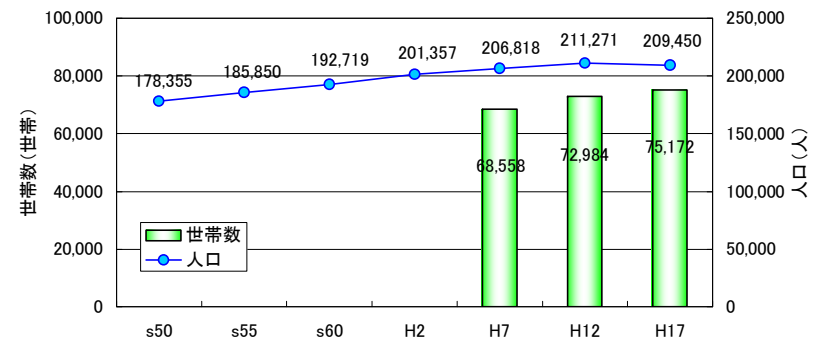
- ・氾濫区域内の人口及び世帯数は年々増加しています。
- ・河川整備計画策定後、基準地点において河川整備計画を上回る洪水は発生していません。

流域内の状況の変化

社会情勢の変化

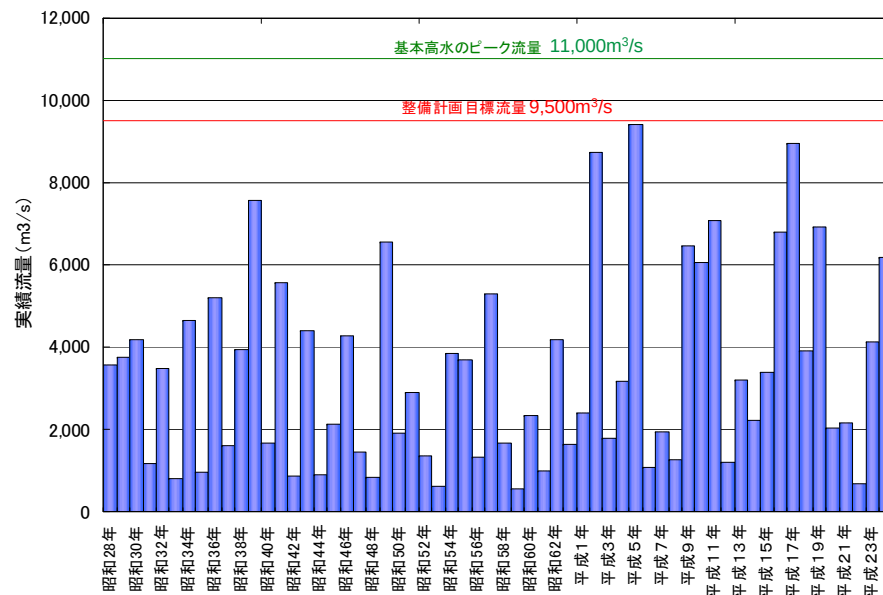


<氾濫区域内の人口・世帯数の変化(平成7年～平成17年)>



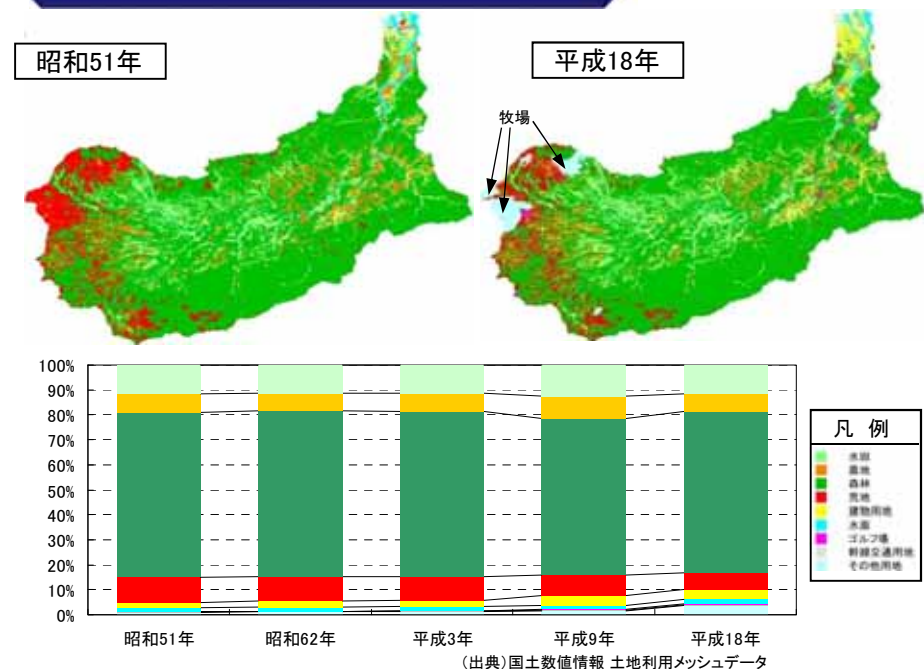
<流域内の人口・世帯数の変化(昭和50年～平成17年)>

年最大流量の変化



<白滝橋基準地点(治水)の年最大流量>

土地利用状況の変化



3) 大野川水系河川整備計画策定時からの変化

河床低下の進行

流域内の状況の変化

- ・河川整備計画策定当時から局所的な河床低下が進行している。



既設護岸の崩壊状況(3k800付近)



根固の崩落(5k600付近)



導水路床固の損傷(12k400付近)

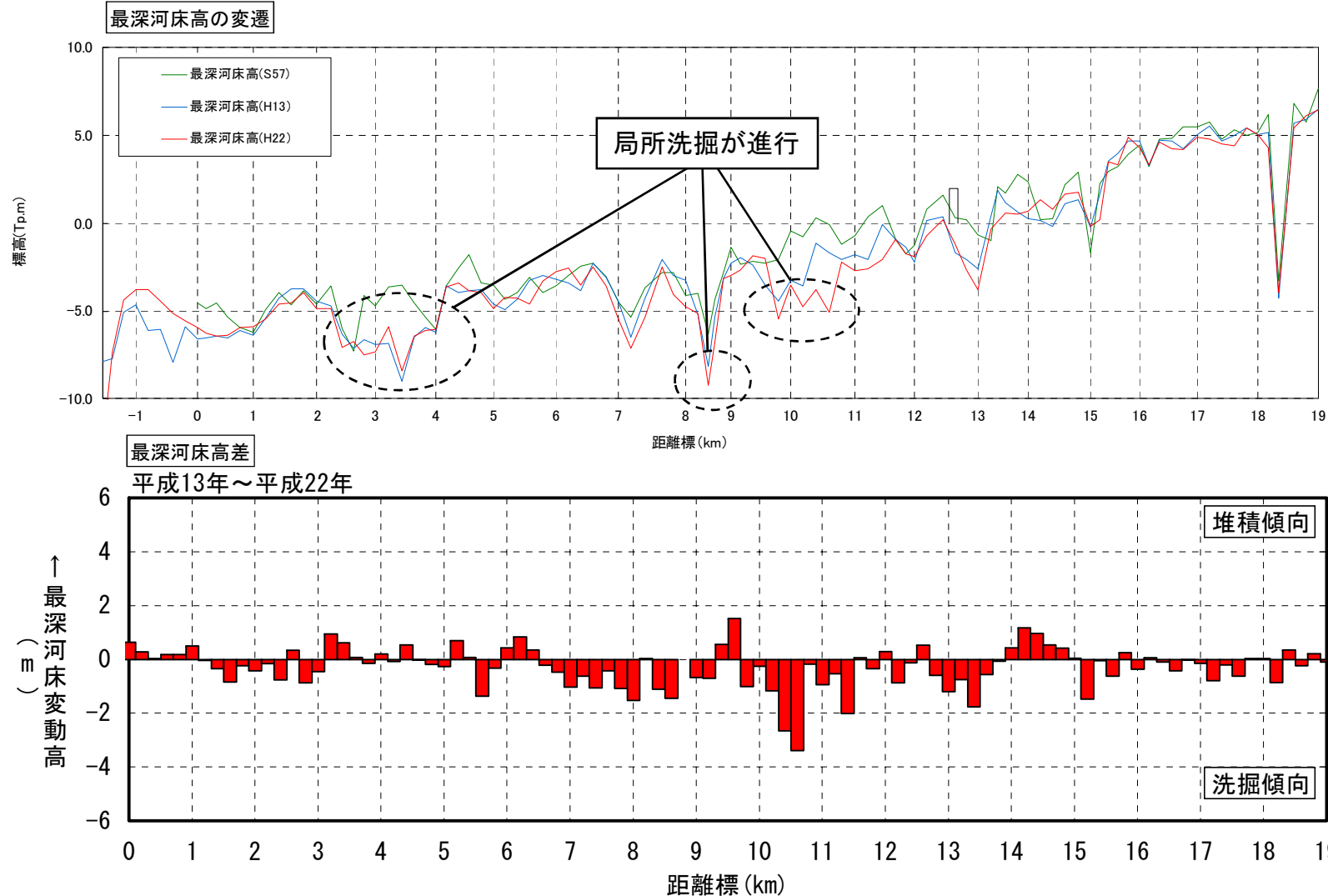


3) 大野川水系河川整備計画策定時からの変化

河床低下の進行

流域内の状況の変化

- 河川整備計画策定時から局所的な河床低下が進行している。

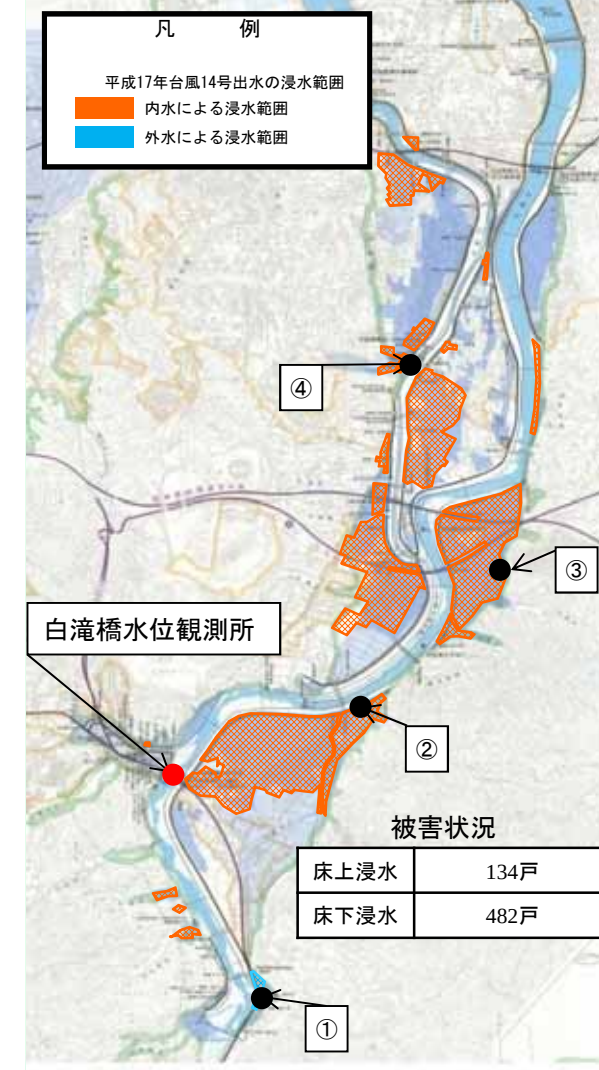
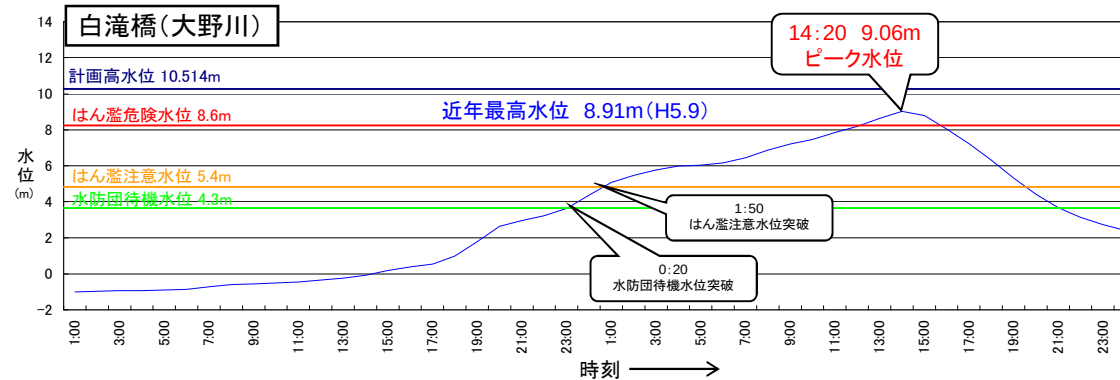


3) 大野川水系河川整備計画策定時からの変化

平成17年9月洪水

・平成17年9月台風14号で利光地区の無堤防区間において大野川から溢れた水により国道10号が冠水する被害が発生しています。また、大野川、乙津川において内水被害が発生しています。

大野川の概要



4. 大野川水系河川整備計画策定時からの変化

河川の利用状況

流域内の状況の変化

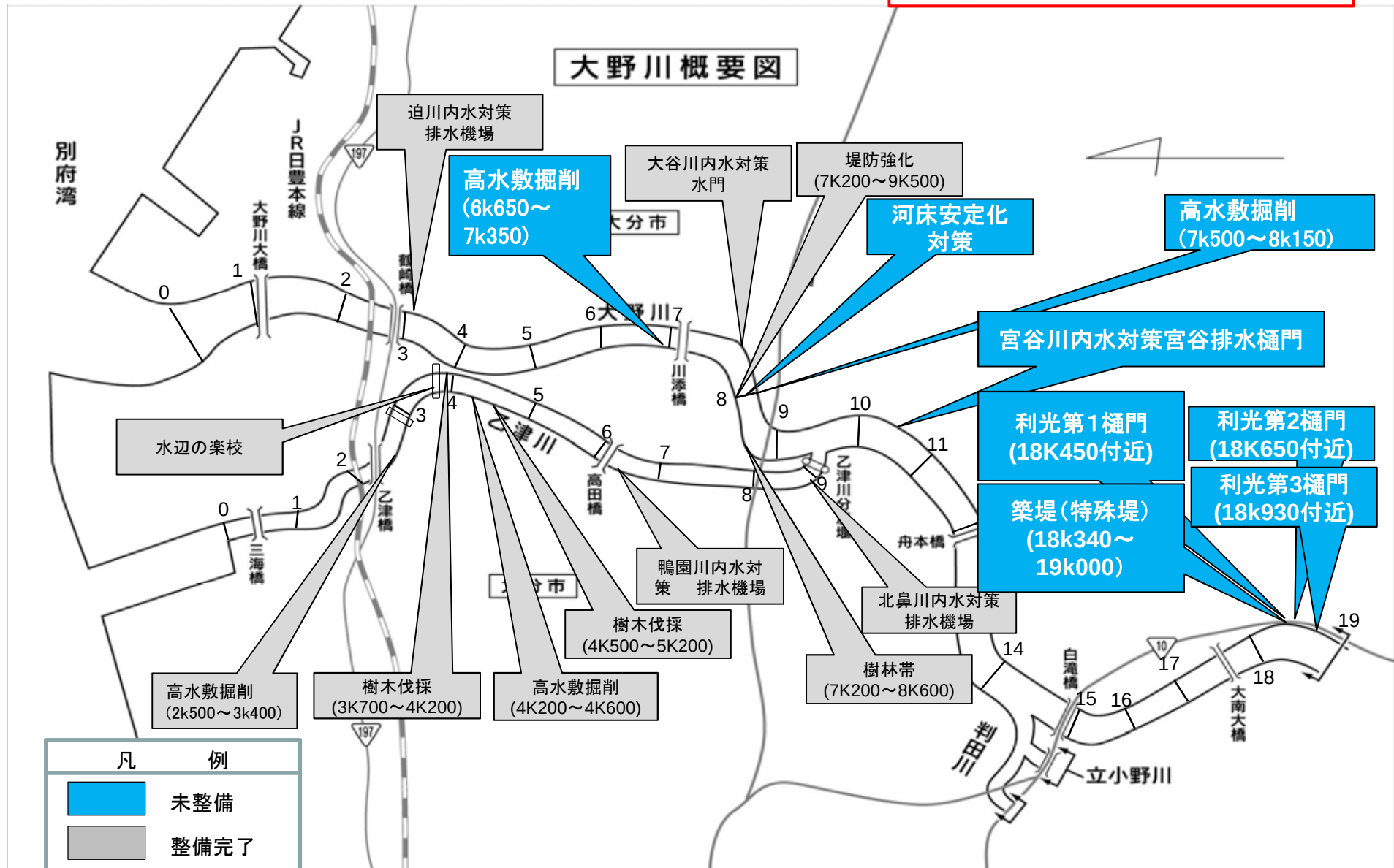
- ・河川空間を活用したイベントや小学校等との環境学習の場など新たな利用が行われている。



河川整備計画策定時から的事業進捗

3) 大野川水系河川整備計画策定時からの変化

河川整備計画策定時からの進捗状況



3) 大野川水系河川整備計画策定時からの変化

内水対策

河川整備計画策定時からの進捗状況

- 河川整備計画に記載されている内水対策については、5事業のうち4事業が完了している。

鴨園川排水機場
処理能力: 4.0 m³ / 秒



迫排水機場
処理能力: 5.0 m³ / 秒



北鼻川排水機場
処理能力: 14.0 m³ / 秒



大谷樋門



宮谷排水樋門

(未実施)

凡 例

- 浸水区域
- 平成16年台風23号出水
 - 平成17年台風14号出水

3) 大野川水系河川整備計画策定時からの変化

河川整備計画策定時からの進捗状況

- ・横尾地区は、大野川水系派乙津川の左岸約9km付近に位置し、過去、平成2年、平成5年、平成9年と内水被害が頻発している。
- ・宅地開発、東芝工場拡張など大規模な開発が進められ、今後も更なる発展が予想されることから大分県及び大分市と連携し北鼻川排水機場を設置。



整備状況

- ・平成20年3月完成
- ・ポンプ排水能力 $14\text{m}^3/\text{s}$ ($7\text{m}^3/\text{s} \times 2$ 台)

整備効果

- ・平成24年7月洪水(ポンプ稼働時間1.5時間)では浸水被害なし



平成9年9月出水
北鼻川周辺浸水状況写真



平成2年7月出水
北鼻川周辺浸水状況写真

ポンプ設備



台風等大雨時に北鼻川の雨水を強制的に乙津川排水します。
総排水量 $14\text{m}^3/\text{s}$
(25m プールを
約25秒で一杯)



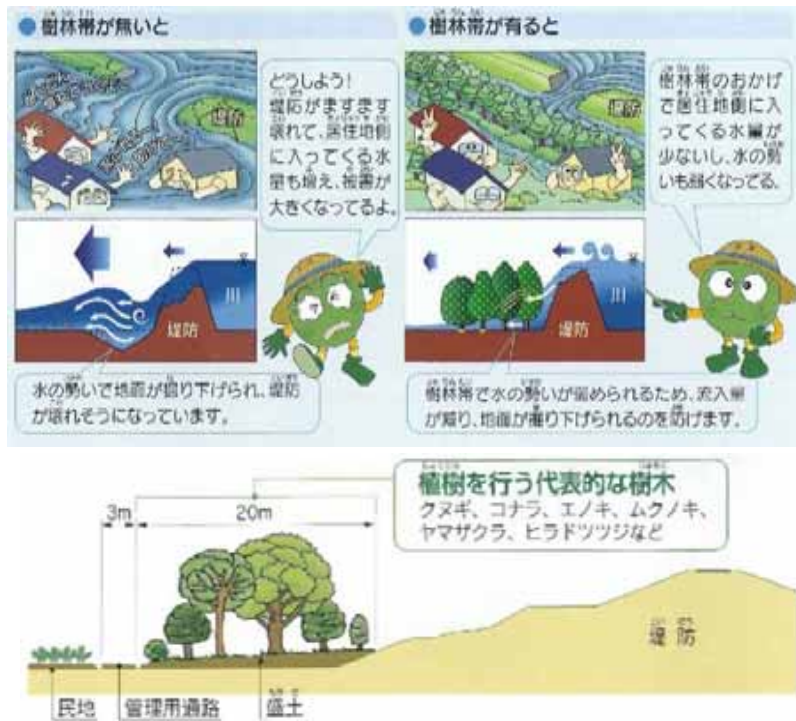
北鼻川排水機場

3) 大野川水系河川整備計画策定時からの変化

樹林帯

河川整備計画策定時からの進捗状況

- ・大野川と乙津川に囲まれた高田校区は輪中を形成しており、古来より洪水の常襲地帯である。
- ・氾濫した水流を抑制し、堤防の決壊拡大防止を目的に樹林帯を整備している。



H22.11.20植樹祭

<整備内容>

- ・大野川左岸 7/600～8/700付近
- ・延長約1.1km、幅約20m



H25.4現地状況



H25.10現地状況

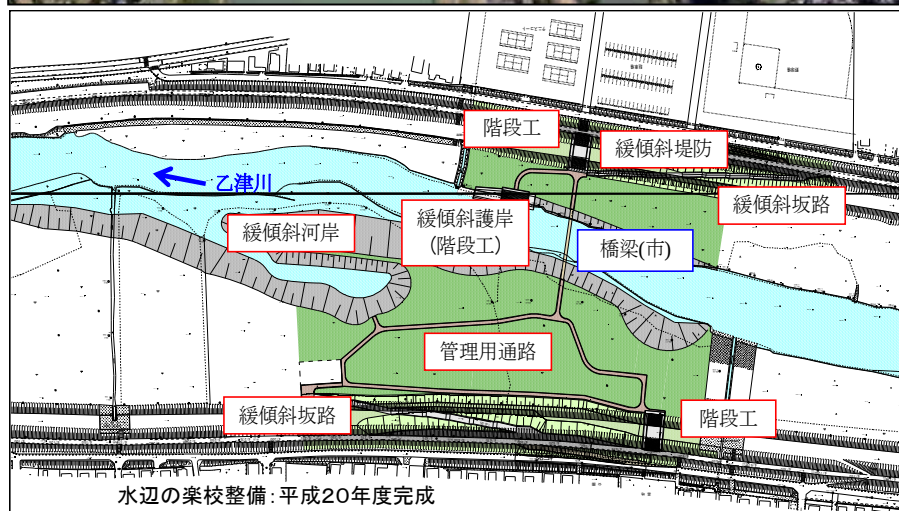
3) 大野川水系河川整備計画策定時からの変化

河川環境整備

乙津川水辺の楽校(大分市堂園地先)

河川整備計画策定時からの進捗状況

- ・水辺の楽校は大分市と連携し整備しており、子どもたちが身近に水辺に親しむことができ、河川環境学習や自然体験活動のより一層の推進が図られている。



イベント開催の様子



野鳥観察の様子



生物観察の様子



水生生物調査の様子



ボート体験の様子



ウォーキング大会の様子

3) 大野川水系河川整備計画策定時からの変化

河川を取り巻く社会状況の変化

治水

利水

環境

- ・大規模な災害(東北太平洋沖地震・九州北部豪雨)が発生し、災害対応のための法整備等が進み、河川を取り巻く状況が大きく変化している。
- ・老朽化対策が社会的な強い関心ごととなっており、効果的、効率的な維持管理・更新を行い持続的な安全を確保することが求められている。

流域内の状況の変化

社会情勢の変化

年最大流量の変化

土地利用の変化

河床低下の進行

河川の利用状況

- ・流域内の社会情勢・土地利用は大きな変化はない。
- ・平成17年に大きな洪水が発生しているが、河川整備計画目標を越える出水は発生していない。
- ・河川整備計画策定時から局所的な河床低下が進行している。
- ・河川空間を活用したイベントや小学校等との環境学習の場など新たな利用が行われている。

現河川整備計画の進捗状況

- ・洪水対策、内水対策の事業は進捗。
- ・河川管理施設の適正な維持管理を実施。
- ・自然学習、河川情報共有化等、関係機関と連携し地域とのコミュニケーションを推進。

H26

第1回

3月7日

- 1) 懇談会での審議内容等
- 2) 大野川水系河川整備計画の概要
- 3) 同上計画策定からの変化

第2回

- 1) 現場視察(大野川)
- 2) 前回懇談会について
- 3) 大野川水系河川整備計画について
・現整備計画の課題
- 4) 大分川水系河川整備計画について
・大分川水系河川整備計画の概要

第3回

- 1) 現場視察(大分川)
- 2) 前回懇談会について
- 3) 大野川水系河川整備計画の点検・評価

第4回

- 1) 前回懇談会について
- 2) 大分川水系河川整備計画
の点検・評価

※審議状況により議事内容、懇談会の開催回数に変更があります。